

「埼玉発世界行き」 帰国奨学生に聞きました！

平成30年度 学位取得コース K.F.さん 台湾

Q1 なぜ、海外で学ぼうと思ったのですか。

私は現在、台湾の国立交通大学大学院でダブルディグリープログラム生として学んでいます。海外に出ることに決めたのは、現在の研究テーマを進めるにあたり、その大学の設備がとても充実していたからです。個人的にはアジアの国家情勢にも興味があったので、実際に滞在し実感したことを何かしらの形で社会に還元できないか、という思いも留学することを後押ししました。



Q2 留学先を決定する際に一番こだわった点は何ですか。

私の場合、研究室同士が提携を結んでいたため留学先が限定されていました。そのため、この回答にお答えする代わりに台湾の宣伝をさせてください(笑) 実際に行ってみて分かったことは、台湾は留学をするにはとても良い国だということです(親日、治安が良い、物価が安い、日本との物理的距離が近い、英語も中国語も学べる…など)。もちろん、目的によって行く国は選ぶべきですが、ただ漠然と「海外で勉強したい」という気持ちがあるのなら、台湾を選択肢の一つに入れてみるのをおすすめします(もちろん毎日タピれます)。

Q3 留学先でもっとも苦労したことは何でしたか、またどのように乗り越えましたか。

私の研究テーマは、日本と台湾の共同で行っているものです。そのため、指導を受ける先生が一人ではありません。異国の地で一度に色んな方からの意見を受け板挟みになった際に、研究へのモチベーションが下がってしまった時期がありました。これを乗り越えるために二つ、心掛けたことがあります。一つ目は、「自分が」何をしたいのか、よく考えるようにしたこと。その



頃は多忙さにも追い込まれていたため、少し立ち止まって自分の意見を見直し、研究への主体性を取り戻すよう意識しました。二つ目は、仲間を巻き込むことです。研究留学ですと、研究室での生活がメインとなります。周りに目を向け積極的に話しかけると、自分と同じような悩みを持っている子がたくさんいることに気付きました。国を越えても共感し合える友人の存在は、これらの困難を乗り越える力の一つになりました。

Q4 留学してよかったと思うことの中で、一番そう思うのはどのようなことですか。

Q3 と少しかぶりますが、国を越えた友人がたくさんできたことです。留学は楽しい思い出もありますが、辛いこともたくさんあります。しかし、それらを総じて美化し達成感をもたらしてくれたのが、この友人たちの存在でした。帰国してもなお連絡は続いており、後期にまたこの子たちに会えるのだろうと思うと次の滞在が楽しみです。縁があってお隣の清華大学のフィールドトリップにお邪魔し、夜中まで人狼をして遊んだことはとても印象的な思い出となりました。



Q5 留学前に知りたかったと思うことや、やっておけばよかった！と後悔したことがあれば教えてください。

台湾に行く予定の方々への回答になってしまいますが、現地で日本の若者カルチャーがとても流行っています（漫画、J-POP など）。もしご自身が興味なくても、日本で現在何が流行っているか調べておくと話のネタが広がると思います。また、日本語を学習したい台湾人はたくさんいて、日本人の需要の高さを感じました。今のうちからでも SNS などと言語交換ができるコミュニティを探してみると、留学のモチベーションになっていいと思います。

Q6 これから留学される方に、アドバイスがあればお願いします。

大切な人生を歩んでいるみなさんに二つだけ、お伝えしたいことがあります。一つ目は「やらなかった後悔の方が辛い」ということ、二つ目は「ポジティブな選択をすること」です。特に二つ目は、なんでも自分の好きなことをやる、という意味ではありません。例えば、『英語が話せない』から〇〇（国名）に留学しないのではなく、『〇〇で△△を学びたい』から留学するというように、物事を選択する際にポジティブな理由を持って選択する、という意味です。特に、留学することに対して少しでも不安な気持ちを持っている方は、ぜひこの二点をどこか心の片隅に入れておいてください。そうすると、良いことも悪いことも前向きに楽しめるようになると思います。すでに留学に行くことが決定していて、モチベーションも保てている方々は、その調子で突き進んでください。留学するという決断はそう簡単にできないことだと思っています。この決断を下した自分に自信を持って、悔いのないよう、様々なことにチャレンジしてください。